

リスク評価(一次)評価 I で用いた人健康影響のデータ

優先評価 化学物質 の番号	名 称	分解性	有害性 クラス	有害性項目ごとの有害性クラス				一般毒性					生体発生毒性					変異原性					発がん性		備考											
				一般毒性	生体発生 毒性	変異原性	発がん性	NO(A)EL等 [mg/kg/day]	試験期間 によるUF (90日未満6 1年未満2)	LO(A)EL採用 によるUF (NO(A)ELの 場合は1)	影響の重大性 に係るUF (エキスパート ジャンプ)	UF 合計	有害性評価値 (D値) [mg/kg/day]	備考	NO(A)EL等 [mg/kg/day]	試験の質 によるUF (1世代 試験は10)	LO(A)EL採用 によるUF (NO(A)ELの 場合は1)	UF 合計	有害性評価値 (D値) [mg/kg/day]	備考	①Ames試験 (復帰突然変 異試験)	②in vitro 哺乳類染色体 異常試験	③その他 のin vitro 試験	④in vivo 小核試験		⑤その他 のin vivo 試験	備考	発がん性 分類	備考							
8	クロロホルム	難分解性	2			外	2																									産衛学会:2B IARC:2B EPA: B2(1986) L(1989) NL(1999) EU:3 NTP:R				
11	1,2-ジクロロエタン	難分解性	2			外	2																									産衛学会:2B IARC:2B EPA: B2(1986) EU:2 NTP:R				
17	テトラメチルアンモニウム=ヒドロキシド	良分解性	2	2		外		5	6	10		6000	0.00083																							
24	2-(1-メチルエトキシ)エタノール	難分解性	2	2	4	外		30	6	10		6000	0.005	125	10	1	1000	0.125																		
70	オクタデシルアミン(N-B)トリフェニルボラン	難分解性	2	2		外		3	6		10	6000	0.0005																							
72	4,4'-ジアミノジフェニルメタン (別名4,4'-メチレンジアニリン)	難分解性	2				2				2																						産衛学会:2B IARC:2B EU:2 NTP:R			
73	4,4'-ジアミノ-3,3'-ジクロロジフェニルメタン (別名4,4'-メチレンジアニリン)	難分解性	1	2	3	2	1	2	6			600	0.0033	50	10		1000	0.050															産衛学会:2A IARC:1 EU:2 NTP:R			
78	3,3'-ジクロロベンジジン	難分解性	2			2	2																										産衛学会:2B IARC:2B EPA: B2(1986) EU:2 NTP:R			
79	ビシクロ[2.2.1]ヘプタン-2,5(又は2,6)-ジイ ル=ジシアニドの混合物	難分解性	2	2		外		1	6	10	10	60000	0.000017																							
80	1,4-ジオキサン	難分解性	2				2																										産衛学会:2B IARC:2B EPA:L(2005) EU:3 NTP:R			
83	ビリジントリフェニルボラン(1/1)	難分解性	2	2		外		1	6			600	0.0017																							
84	ビス(2-スルフィドビリジン-1-オラト)銅	難分解性	2	2		外		2.5	6			600	0.0042																							
85	ジカリウム=ビベラジン-1,4-ビス(カルボジチオ アート)*	難分解性	2	3	2	2							0.012	ACGIH(2009年版) TLV-TWA:1ppm より換算	25	10	10	10000	0.0025														旧化管法 変異原性クラス1 より算出			
90	メタノール	良分解性	2	2		外		2		10		1000	0.002																							
91	ジエタノールアミン	良分解性	2	2		外	2	0.4	2			200	0.002																					ACGIH:A3 IARC:2B		
92	過酢酸	良分解性	2	2		外		0.75	2			200	0.0038																							
93	無水酢酸	良分解性	2	2		外		0.56	2			200	0.0028																							
94	アクリル酸	良分解性	3	3		外		4.5	2			200	0.023																							
95	クロロ酢酸ナトリウム	良分解性	2	2		外		15	2	10	10	20000	0.00075																							

* 変化物の二硫化炭素の有害性データが優先評価化学物質の指定根拠となっていることから、二硫化炭素の有害性情報を用いて評価 I を実施している。

化管法の対象物質から指定された旧第二種監視化学物質由来の優先評価化学物質

資料3-1
平成25年10月8日

優先評価 化学物質 の番号	名 称	分解性	有害性 クラス	有害性項目ごとの有害性クラス				有害性評価値(D値) [mg/kg/day]		変異原性	発がん性	備考
				一般毒性	生殖発生 毒性	変異原性	発がん性	一般毒性	生殖発生 毒性			
1	二硫化炭素	難分解性	2	3	2	2		0.012	0.0025	化管法変異原性 クラス1		
3	n-ヘキサン	良分解性	4		4				0.26		EPA:I(2005)	
5	イソプレン	難分解性	2				2				産衛学会:2B IARC:2B EU:2 NTP:R	
6	クロロメタン (別名塩化メチル)	難分解性	2	4		2	2	0.07		化管法変異原性 クラス1	IARC:3 EPA:D(1986)・ CBD(1996) EU:3	
9	ブロモメタン (別名臭化メチル)	難分解性	2	2		2		0.00019		化管法変異原性 クラス1	IARC:3 EPA:D(1986)	
10	クロロエタン	難分解性	2	クラス外		2	2	2.7		化管法変異原性 クラス1	IARC:3 EU:3	
14	1,3-ジクロロプロペン (別名D-D)	難分解性	2	2		2	2	0.0008		化管法変異原性 クラス1	産衛学会:2B IARC:2B EPA:B2(1986)・ K/L(1996) NTP:R	
15	メチルアミン	難分解性	2			2				化管法変異原性 クラス1		
16	ジメチルアミン	良分解性	3	3				0.0074				
18	ニトロメタン	難分解性	2				2				産衛学会:2B IARC:2B NTP:R	
21	1,2-エポキシブタン	良分解性	2	2			2	0.0019			産衛学会:2B IARC:2B EU:3	

化管法の対象物質から指定された旧第二種監視化学物質由来の優先評価化学物質

資料3-1
平成25年10月8日

優先評価 化学物質 の番号	名 称	分解性	有害性 クラス	有害性項目ごとの有害性クラス				有害性評価値(D値) [mg/kg/day]		変異原性	発がん性	備考
				一般毒性	生殖発生 毒性	変異原性	発がん性	一般毒性	生殖発生 毒性			
22	エピクロロヒドリン	良分解性	2	3		2	2	0.0076		化管法変異原性 クラス1	産衛学会:2A IARC:2A EPA:B2(1986) EU:2 NTP:R	
23	エチレングリコールモノメチルエーテル	良分解性	2		3	2			0.031	化管法変異原性 クラス1		
26	アセトアルデヒド	良分解性	2			2	2			化管法変異原性 クラス1	産衛学会:2B IARC:2B EPA:B2(1986) EU:3 NTP:R	
27	N,N-ジメチルホルムアミド	難分解性	2	4	2	2	2	0.12	0.0001	化管法変異原性 クラス1	産衛学会:2B IARC:3	
28	酢酸ビニル	良分解性	2	3		2	2	0.02		化管法変異原性 クラス1	産衛学会:2B IARC:2B	
31	アクリル酸メチル	良分解性	2			2				化管法変異原性 クラス1	IARC:3 EPA:D(1986)	
32	アクリル酸エチル	良分解性	2			2	2			化管法変異原性 クラス1	産衛学会:2B IARC:2B	
34	アクリルアミド	良分解性	2	2	3	2	2	0.005	0.015	化管法変異原性 クラス1	産衛学会:2A IARC:2A EPA:L(2005) EU:2 NTP:R	
35	メタクリル酸	良分解性	2	2				0.00025				

化管法の対象物質から指定された旧第二種監視化学物質由来の優先評価化学物質

資料3-1
平成25年10月8日

優先評価 化学物質 の番号	名 称	分解性	有害性 クラス	有害性項目ごとの有害性クラス				有害性評価値(D値) [mg/kg/day]		変異原性	発がん性	備考
				一般毒性	生殖発生 毒性	変異原性	発がん性	一般毒性	生殖発生 毒性			
36	エチレンジアミン四酢酸	難分解性	2	4		2		0.08		化管法変異原性 クラス1		
37	ニトリロ三酢酸	難分解性	2	4			2	0.08			IARC: 2B NTP: R	
38	アセトニトリル	良分解性	2			2				化管法変異原性 クラス1	EPA: D(1986)・ CBD(1996)	
40	チオ尿素	難分解性	2		3	2	2		0.035	化管法変異原性 クラス1	産衛学会: 2B IARC: 3 EU: 3 NTP: R	
43	ヘキサメチレン=ジイソシアネート	良分解性	2	2				0.000004			IARC: 3	
46	トルエン	良分解性	2		外	2			1.4	化管法変異原性 クラス1	IARC: 3 EPA: I(2005)	
47	スチレン	良分解性	2			2	2			化管法変異原性 クラス1	産衛学会: 2B IARC: 2B NTP: R	
48	イソプロベニルベンゼン (別名 α -メチルスチレン)	難分解性	2			2	2			化管法変異原性 クラス1	IARC: 2B	
50	エチルベンゼン	良分解性	2				2				産衛学会: 2B IARC: 2B EPA: D(1986)	
51	ベンジル=クロリド (別名塩化ベンジル)	良分解性	2			2	2			化管法変異原性 クラス1	産衛学会: 2A IARC: 2A EPA: B2(1986) EU: 2	
52	o-ジクロロベンゼン	難分解性	2	4		2		0.24		化管法変異原性 クラス1	IARC: 3 EPA: D(1986)	

化管法の対象物質から指定された旧第二種監視化学物質由来の優先評価化学物質

資料3-1
平成25年10月8日

優先評価 化学物質 の番号	名 称	分解性	有害性 クラス	有害性項目ごとの有害性クラス				有害性評価値(D値) [mg/kg/day]		変異原性	発がん性	備考
				一般毒性	生殖発生 毒性	変異原性	発がん性	一般毒性	生殖発生 毒性			
53	p-ジクロロベンゼン	難分解性	2	3			2	0.03			産衛学会:2B IARC:2B EU:3 NTP:R	
54	アニリン	良分解性	2	3		2	2	0.007		化管法変異原性 クラス1	IARC:3 EPA:B2(1986) EU:3	
55	m-フェニレンジアミン	難分解性	2	2				0.0004			IARC:3	
56	o-フェニレンジアミン	難分解性	2	2		2	2	0.0004		化管法変異原性 クラス1	EU:3	
58	o-クロロアニリン	難分解性	2			2				化管法変異原性 クラス1		
59	ニトロベンゼン	難分解性	2	3	3		2	0.02	0.0075		産衛学会:2B IARC:2B EPA:L(2005) EU:3 NTP:R	
60	p-クロロニトロベンゼン	難分解性	2	2		2	2	0.0026		化管法変異原性 クラス1	IARC:3 EU:3	
61	ジニトロトルエン	難分解性	2	2	3	2	2	0.0008	0.01	化管法変異原性 クラス1	IARC:2B EU:2	
62	フェノール	良分解性	2			2				化管法変異原性 クラス1	IARC:3 EPA:D(1986)・ I(1999)	
65	ピロカテコール (別名カテコール)	良分解性	2			2	2			化管法変異原性 クラス1	産衛学会:2B IARC:2B	
66	フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	良分解性	2	2	3		2	0.0024	0.014		産衛学会:2B IARC:2B EPA:B2(1986) NTP:R	

化管法の対象物質から指定された旧第二種監視化学物質由来の優先評価化学物質

資料3-1
平成25年10月8日

優先評価 化学物質 の番号	名 称	分解性	有害性 クラス	有害性項目ごとの有害性クラス				有害性評価値(D値) [mg/kg/day]		変異原性	発がん性	備考
				一般毒性	生殖発生 毒性	変異原性	発がん性	一般毒性	生殖発生 毒性			
67	テレフタル酸ジメチル	良分解性	2			2				化管法変異原性 クラス1		
68	テレフタル酸	良分解性	2	2				0.00022				
69	1, 2, 4-ベンゼントリカルボン酸 1, 2-無水物	良分解性	2	2				0.00016				
74	メチレンビス(4, 1-フェニレン) = ジイソシアネート	難分解性	2	2			2	0.000092			IARC:3 EPA:D(1986)・ CBD(1996) EU:3	
76	ナフタレン	難分解性	2	2			2	0.0037			IARC:2B EPA:C(1986)・ CBD(1996) EU:3 NTP:R	
81	モルホリン	難分解性	2	3		2		0.026		化管法変異原性 クラス1	IARC:3	
82	ε-カプロラクタム	良分解性	2			2	外			化管法変異原性 クラス1	IARC:4	
87	4, 4'-イソプロピリデンジフェノー ルと1-クロロ-2, 3-エポキシプ ロパンの重縮合物 (別名ビスフェノールA型エポキシ樹 脂) (液状のものに限る。)	難分解性	2							化管法変異原性 クラス1	IARC:3	

※ 事業者からの有害性情報の提出により、変異原性については実質的に懸念がないことが示されている。